

白山神社本殿 付棟札4枚

(はくさんじんじゃほんでん つけたりむなふだよんまい)

永正12年(1515年)造立。三間社流造^{※1}で、東側の軒の出が短く縁を省いて非対称形をなしています。細部の形式は室町時代の特色をよく示し、和様形式を主体としながらも、唐様形式の肘木^{※2}を使っているのが注目されます。

身舎^{※3}の円柱、その上部の組物は造立当初のもので、寛永年間(1624-1644)の修理で向拝^{※4}の海老虹梁^{※5}が付け加えられています。その後も大小修理を経て現在に至っています。



山口家住宅 付普請関係文書2冊

(やまぐちけいじゅうたく つけたりふしんかんけいもんじょにさつ)

代々庄屋を勤めた山口家の現住宅は、建築当時の普請帳によると安永8年(1779年)に建てられました。

建物は寄棟造茅葺(現在は鉄板葺)で、四面に鉄板葺の庇や突出部を後設しています。柱はほぼ一間ごとに立ち、平面は土間の他に四室が田の字型に並ぶ整形四間取りとなっています。

床は約90cmと高く、梁組は四方を縦横に丈夫な太い梁をめぐらし両端をチョウナバリ^{※1}とするなどの雪国民家と当地方の特徴も示しています。



伊藤家住宅 6棟(主屋、座敷の蔵、米蔵・味噌蔵、米蔵、裏蔵)付裏蔵覆屋1棟、土蔵造立帳1冊、門及び塀(門、塀)付覆屋1棟、離れ1棟、大工納屋1棟、牛小屋1棟、宅地・畑及び雑種地

江戸時代において、いわゆる北前船と称されたように様々な物資を船で運ぶ廻船が盛んになり、当地の海辺の集落は大いに栄えたことが船絵馬や古文書に示されています。

こうした当地の海運業の中心となったのが鬼舞の伊藤家で、明治になると海運業から精米や農業等の経営に転換し、築いた財力で民芸運動を支援したことで知られます。

残念ながら、近隣からの類焼で主屋は明治20年に焼失してしまいましたが、豊かな建築知識を持った4代目当主祐三郎氏の指揮によって明治23年にほぼ再建された主屋は、近世以来の当地の民家様式を継承しながらも、その規模、配置、間取、用材とも近代の合理的な考え方が反映されています。また、海運業で栄え、能生地域における農業を先導し、民芸運動を支援した伊藤家の歴史と雰囲気は今に伝えています。



木造聖観音立像

(もくぞうしょうかんのりゅうぞう)

像高※₁は140cm、桜材の一木造り※₂で、内刳※₃素地※₄です。

姿勢、服装、腰裳※₅、顔、目、唇等は藤原時代の特徴をよく表現しています。宝髻※₆部及び頭頂部に柄穴があることから仏首を植付けていたものと考えられ、十一面観音であったと推定されます。また、両手首をはぎ、両肩側面に脇手を取付けた痕跡を残していることから千手観音であった可能性もあると言われています。



木造十一面観音立像

(もくぞうじゅういちめんかんのりゅうぞう)

水保観音堂奉安庫（別棟）に安置されているこの像は丸のみを横に用いて荒っぽく彫る「鉦彫り」という技法で作られたもので、県内でも珍しい仏像です。

像高155cm、桜材の一木造で両手は失われていますが、のみの運びは自由で、像からは素朴な穏やかさが感じられます。頭部の天冠台※₁上に、墨書きで口を開いて笑った顔や怒った顔などが10面描かれています。

藤原時代における荒彫あるいは鉦彫彫刻の一例として貴重です。



能生白山神社の海上信仰資料

(のうはくさんじんじやのかいじょうしんこうしりょう)

能生地域の先人たちは古くから海との深いかかわりをもって、回船※₁を生業としてきました。これに携わった人々は航海の安全や商売の繁盛を願って能生白山神社へ船絵馬を奉納していました。

神社にはこれらの絵馬が数多く残されています。この中には宝暦・明和年間のもの、我が国唯一の「ハガセ船※₂」の描かれているものもあり、日本海の手運史や海上信仰の資料として貴重です。



越後姫川谷のボッカ運搬用具コレクション

(えちごひめかわだにのぼっかうんぱんようぐこれくしょん)

歩荷（ボッカ）とは、物資の背負運搬を生業とした人およびその運搬行為を指します。

松本街道ではかつて、歩荷や牛方が塩や海産物の運搬を、江戸時代から明治時代にかけて盛んに行っていました。その際に使用されていた運搬用具※、携行用具、衣類など706点が指定されています。歩荷や牛方の実態をよく示す資料であり、当時の交易の様子や物資運搬の苦勞を示す資料として貴重です。



糸魚川木地屋の製作用具と製品コレクション

(いといがわきじやのせいさくようぐとせいひんこれくしょん)

木地屋（木地師）とは白木の椀や盆などを作る職人や集団を指します。糸魚川木地屋は江戸時代後期に森林資源に恵まれた大所地区に定住し、椀類、膳、盆、捏鉢（こねばち）などを製作していました。明治以降は漆塗や蒔絵も手がけるようになり、作業は集落内の各家が分業して行っていました。製作に使用されたロクロやチョウナ、ヘラやハケ、木地製品など 1461 点が指定されていて、木地屋の生業の変遷を示す資料として貴重です。



青海の竹のからかい

(おうみのたけのからかい)

江戸時代から続くといわれている奇祭。さいの神と一連の行事で、2本の竹を引き合う「からかい」は地域固有のものです。

この小正月行事には、さいの神の来臨、豊作・豊漁祈願や災厄除け、火祭りによる新年の再生等の願いが込められ、民衆の抱く心意気が顕著に現れています。また、子どもによる門松集め、大人による竹の下見・竹伐り・飾り竹の製作等、年齢に応じた役割分担もあり、民俗行事の典型例として貴重です。



糸魚川・能生の舞楽

(いといがわ・のうのぶがく)

糸魚川の天津神社と能生の能生白山神社にそれぞれ伝わる舞楽は、ともに大阪四天王寺の舞楽を伝承しているといわれています。

天津神社の舞楽は 12 曲で構成されており、4 月 10 日と 11 日の春季祭礼に神社の境内にて奉納されます。鎌倉風とされ、文献資料から 300 年は遡るとされています。

能生白山神社の舞楽は行列の先払いとして獅子舞が行われ、その後 11 曲が演じられます。4 月 24 日の春季祭礼に神社の境内にて奉納されます。文献から 500 年は遡るとされています。

写真上段=天津神社舞楽「鶏冠（けいかん）」
下段=能生白山神社舞楽「陵王（りょうおう）」



根知山寺の延年

(ねちやまでのえんねん)

根知山寺の日吉神社に伝わる、県内唯一の延年芸能です。通称「おててこ舞」と呼ばれています。毎年 9 月 1 日の日吉神社秋季祭礼に 10 曲、前日の宵宮※1に神楽 9 曲が奉納されます。このうち 9 月 1 日に奉納される 10 曲が文化財に指定されている延年です。

延年には寿命寿福の意味があります。風流踊り（歌舞伎踊）や神楽、万才、獅子舞などにより構成されますが、歌詞には室町小歌に見られるような言葉や使い方があり、京都の流れを汲むとされています。



長者ヶ原遺跡

(ちょうじゃがはらいせき)

縄文時代早期から後期に渡って営まれた大集落の跡です。最も栄えた縄文中期(約5000年前～3500年前)では広場を取り囲むように墓穴、立石※1、堀立柱建物※2、貯蔵穴、住居跡、廃棄域等が環状に配置され、近くには湧水もあります。また磨製石斧やヒスイ・蛇紋岩製装身具の生産資料が膨大です。

遺跡全域はほぼ良好に保存され、遺跡公園として整備されています。史跡の推定面積は約14haで、ちょうど東京ドーム3個分の面積に相当します。



寺地遺跡

(てらじいせき)

寺地遺跡はヒスイの産地として知られる姫川と青海川の両河口に挟まれ、日本海に面する低丘陵の先端部に営まれた縄文時代中・晩期の遺跡です。

径60cm余の木柱や立石、配石遺構などが検出され、またヒスイや土器など多種多様な遺物が出土するなど、特殊な祭祀形態とヒスイ製玉類の生産実態をうかがうことができます。

史跡指定の区域は遺跡公園となっており、面積は約3500㎡です。



松本街道

(まつもとかいどう)

糸魚川と信州松本を結ぶ松本街道は「塩の道」ともいわれ、越後の上杉謙信が敵将である武田信玄に塩を送ったとされる美談でも有名です。

江戸時代から昭和初期まで、「歩荷」「牛方」と呼ばれる背負運搬人が、塩荷などの生活物資や北前船※1で持ち込まれた物などを運び、信越交易の主要道路として往時は大変にぎわいました。

指定区間にはU字の道形「ウトウ」や茶屋跡、石仏群などが残っています。



おくのほそ道の風景地 親しらず※

(おくのほそみちのふうけいち おやしらず)

江戸時代の俳人・松尾芭蕉が記した紀行文『おくのほそ道』に登場する名所旧蹟が一連の名勝として文化財指定され、そのひとつに親不知も含まれています。

親不知について芭蕉は「今日は親知らず・子知らず・犬戻り・駒返しなどいふ北国一の難所を越えて疲れはべれば」と記しており、市振の桔梗屋で「一つ家に 遊女も寝たり 萩と月」の名句を遺しています。

親不知海岸は飛騨山脈の北端が約15キロメートルに渡って急崖となって日本海に没するところで、その様は雄大な自然景観を誇りますが、一方で古来より北陸道の最大の難所として知られる所以でもあります。



白馬連山高山植物帯

(しろまれんざんこうざんしょくぶつたい)

日本アルプスを代表する高山植物の生息地で、新潟・長野・富山の3県にまたがっています。

白馬三山をはじめ、白馬大池、雪倉岳などに及ぶ広大な地域には、キバナシャクナゲ、コマクサ等の多種類の植物が見られるほか、千島千振、リシリオウギ等の北地系植物の南限をなすものも少なくありません。



ライチョウ

キジ目ライチョウ科の鳥類。一年中日本のほぼ同じ地域に生息し季節による移動をしない留鳥で、体長は30~40cmです。天敵にごく弱いことから、夏は褐色または淡褐色、冬は白色と季節に応じた保護色になります。

市内では蓮華一帯から火打山、焼山および雨飾山などの高山に生息しています。



カモシカ

偶蹄目ウシ科の哺乳類。本州・四国・九州の山岳地帯に生息し、体長は約110~130cm、体色は黒褐色や灰褐色が多く、雄雌ともに黒い角があります。すぐれた毛皮を持つことから乱獲が続き、数を減らしてきました。

行動圏は直径約500~1,000mの縄張りの中で、母親が子を連れる以外はほとんど単独で行動します。

市内では姫川流域以西の山岳部に生息していましたが、近年ではその生息域を広げ、人家近くにも出没するようになりました。



ヤマネ

ネズミ目ヤマネ科の哺乳類。日本の固有種で、国内に生息する哺乳類の中で最も古い種類のひとつです。本州・九州・四国・隠岐に生息しています。

体長は約8cm前後、淡褐色の体の背に暗褐色の縦じまが入るのが特徴です。夜行性で、木の実や昆虫を食べ、樹上で生活しています。寒くなると体に脂肪をたくわえ、土や雪、木のウロの中などで丸くなって冬を越します。

市内6か所で生息を確認しています。

イヌワシ

タカ目タカ科の鳥類。国内では北海道から九州にかけての山岳地帯に生息しています。体長は約75~95cm、翼を広げた長さは約180cm前後になります。体の色は全体に黒褐色や暗褐色ですが後頭部は黄色です。

市内では5組の生息を確認でき、時折空を飛ぶ姿を見ることができます。生息密度は日本でも有数の高さです。

オジロワシ

タカ目タカ科の鳥類。冬に日本に渡ってきます。全長約 70～100cm、翼を広げたときの長さは 180～240cm になります。褐色の体に淡褐色の頭部と白い尾羽をもち、これが和名の由来になっています。

河川や湖沼付近などに住み、魚や小動物などを食べます。市内の姫川流域で確認されています。

能生白山神社社叢

(のうはくさんじんじゃしゃそう)

白山神社の社叢は権現山あるいは尾山（おやま）と呼ばれ、地域の人々の篤い信仰心によって守られてきました。このため、数百年来の自然植生が残されています。

海に面している北側は高さ 90m の断崖で、対馬暖流の影響によってツバキ、アカガシ、シロダモ、シダ類などが多生しており、これらの暖地性樹種と共に寒地性樹種も混生し、さらに亜熱帯性の昆虫や珍しい陸産貝類も生息しています。



能生ヒメハルゼミ発生地

(のうひめはるぜみはっせいち)

ヒメハルゼミはセミ類の中では最も小さい仲間に属し、体長は約 3cm、翅（はね）の先までの長さは約 3.5cm です。オリーブ色の細身の体には数本の黒いすじがあり、暗緑褐色の腹部の第 4 節の両側がイボ状に突出しています。翅は透明で、緑色の斑（ふ）が入ったような模様が見られます。

(注：右の写真のヒメハルゼミは羽化から間もないので、まだ色や模様がはっきりと表れていません)

発生地は本州から琉球列島に至り分布していますが、日本海側では兵庫県城崎温泉付近と能生白山神社の社叢だけです。



小滝川硬玉産地

(こたきがわこうぎょくさんち)

明星山の下を流れる小滝川の河床には、ヒスイ（硬玉）の巨大な転石が散在しています。

縄文時代から古墳時代にかけて珍重されたヒスイは、昭和 13 年に小滝川で発見されるまで、大陸から運ばれてきたと信じられていました。

現在、青森県三内丸山遺跡をはじめとする日本各地の遺跡から出土するヒスイ製品は、小滝川産・青海川産のヒスイであることが定説となっています。

小滝川硬玉産地は、地質学だけでなく、考古学的にも非常に貴重といえます。



青海川の硬玉産地及び硬玉岩塊

(おうみがわのこうぎよくさんちおよびこうぎよくがんかい)

青海川上流の橋立集落に近い河床には蛇紋岩の大露頭がみられ、これに接して含ヒスイ（硬玉）曹長岩塊が点在しています。

小滝川硬玉産地と同様、地質学的にも考古学的にもたいへん貴重ですが、当市ではヒスイ原石保護のため、岩塊2点を青海総合文化会館前と親不知ピアパーク内「翡翠ふるさと館」に移設し、展示公開しています。



糸魚川市根知の糸魚川－静岡構造線

(いといがわしねちのいといがわーしずおかこうぞうせん)

糸魚川－静岡構造線は、日本列島を東北日本と西南日本に二分する、長さ約250kmに及ぶ大断層です。この断層はフォッサマグナの西の境界断層とされ、北アメリカプレートとユーラシアプレートの境界とする説があります。

根知の断層露頭は、平成2年に人工的に掘削されたもので、断層の西側には古生代ペルム紀（2.7億年前）の変斑れい岩、東側には新生代新第三紀（1600万年前）の安山岩等があります。断層周辺は断層破碎帯となっており、断層角礫岩や断層粘土が観察できます。

